

06 海外ボランティア・インターンシップ

成長はコンフォートゾーンの外に 押切 啓介

大学2年次の夏、6週間にわたり、バングラデシュのグラミン銀行でインターンシップを行った。グラミン銀行は貧困層向けの小口金融であるマイクロファイナンスを中心にインフラ・通信・エネルギーなど、多分野で「グラミン・ファミリー」と呼ばれるソーシャル・ビジネスを展開している機関である。創始者のムハマド・ユヌスと共に2006年にノーベル平和賞を受賞した。

インターンシップへの参加理由は大きく分けて2つあった。1つは大学の講義で「グラミン銀行とマイクロファイナンス」を知り、同銀行が貧困層に向けて効率的にサービスを提供していることに感銘を受け、実際に「現場」を見たいと感じたからだ。2つ目は同世代にして、すでにグラミン銀行研究ラボ初の日本人コーディネーターに就任した税所篤良という人物と同じ場所でインターンをしてみたかったからだ。

インターンシップの内容としては、最初の3週間は首都ダッカにて、オフィスでのデスクワークやワークショップに参加し、残りの3週間はグラミン銀行の支店がある村に配属された。村では、実際にローンが貸し借りされている現場を見ながら、ローンの借り手とのミーティングに毎日参加し、彼らへのインタビューを通じて、ローンの使い道に関するデータ分析や、借り手への融資の有効な使い方についてアドバイスを行った。

インターン中の学びは数え始めたらきりが無いほどある。その中で1番大きいものとして、「世界レベルのメンバーと実務経験を積むこと」

があげられる。海外の名門大学の学生が集うチームでの活動の中で、どのように自らの「個」であり、「価値」を提供できるか、何度ももがき続けた。その経験はどんな環境下においても常に「自分の価値」を提供していくことの重要性に気づかせてくれた。また、インターンへの参加準備を全て自力で行い、途上国の村に3週間の滞在したことで、「どんな環境でも生きていける自信」が付いた。インターンを通して、大学では学ぶことのできない世界観や、新しい価値観を学んだ。

グラミン銀行でのインターン経験から「高いレベルの場所に身を置く」ことは、個々の成長にとって非常に重要だと感じた。「自分を変えて成長する」ということは大学生であれば誰もが直面する、極めて難しい課題だ。国際総合学類にはそのような機会が溢れている。高校生であるみなさんには、大学に入学してからも、常に新しい環境、レベルの高い人々、知識が集まる環境に身を置いてどんどん成長してもらいたい。成長はコンフォートゾーンの外にある。



バングラデシュ農村でのインタビューとフィールドワーク

OECDでのインターンを経験して

浅井 瑞穂

私は大学二年の春休みの期間中、OECD東京センターでインターンをさせて頂きました。私がインターンをした部門は広報局の一部署で、日々の業務として、新聞やオンラインメディアに記載されるOECD関連の記事を、OECD本部に報告していました。インターン期間中、OECDの事務総長が来日された関連で、事務総長向けに日本の主要ニュースをまとめた冊子を作成したり、記者会見にOECD職員として参加させて頂き、日本経済に関する話を直接聞いたり、カメラマンとして事務総長を撮影させて頂いたりしました。また、OECDグローバル議員ネットワーク東京会合が行われる衆議院の国際会議場も見学させて頂き、国の政治が行われる場を間近で感じることができました。さらに、最も重要な業務として、来日中の事務総長の安部首相や麻生財務大臣との面会、OECDグローバル議員ネットワーク東京会合などに関連した記事を収集し、事務総長来日が日本のメディアに与えた影響を本部に報告する業務の一端を担いました。

また、事務総長来日時のレセプションパーティーでは、各国の国会議員や様々な業界の第一線で働く方々とお話する機会があり、日本社会の将来についてお話ししたりして、非常に刺激を受けました。また、輝かしいバックグラウンドを持っていらっしゃるOECD東京センター所長や職員の方々と直接お話しする機会を得ることができ、自身の将来を考え直す機会を得ることができました。

私がインターンをした部門では、OECDからの社会でより良い暮ら

しを実現するための提言をいかにメディアに多く発表してもらい、日本社会の中でのOECDの提言の存在感を高めていくかが非常に大切でした。社会の中でのメディアの存在感の大きさを学んだとともに、政府の社会に対する役割や国際機関が実際に社会に対してどのような役割をもっているのかを学ぶことができました。国際機関の重要な役割の一つともいえる、国民に「伝える」ということの一端に携わる中で非常に貴重な体験をさせて頂くことができ、インターンという機会を与えて下さった方々に、とても感謝しています。

国際総合学類は、幅広く学び、興味ややりたいことが見つかった時に全力で取り組める環境だと思います。



留学先のエディンバラ大学にて